

大熊町社会教育複合施設第1回ワークショップ報告書

「本と文化財と歴史公文書で何ができる？」

日 時 令和4年5月28日（土）午後1時30分～午後3時45分

場 所 大熊町役場多目的ホール

参加者 グループ① Aさん、Bさん、Cさん

グループ② Dさん、Eさん、Fさん

主な内容

- ・施設計画についてご説明
 - 図書館、公民館、博物館、公文書館の機能を持つ複合施設として計画
※ただし歴史公文書の移管については総務課と連携し検討を進める
 - 各機能やそれぞれが抱える資料について概要説明
- ・グループワーク①「あなたと大熊町のつながりを教えてください」
- ・グループワーク②「本、文化財資料、歴史公文書、場をあなたはどのように使いますか？」

（要旨）

グループ①では、町の記録としての歴史公文書により施策の背景を知り、町の未来へ生かすこと、原発誘致時の町の状況を知り、誘致反対派がいたことの記録を残したいなどの意見が出たほか、「資料」から得る情報ではなく「人」に会い、話を聞くことで得る情報を求める声があった。「ここが大熊である」と避難した町民が思える場所として図書館を残すこと、さらに図書館周辺の公園も残すことを求める声があった。

グループ②では、モノ資料が残っていないような町の歴史や営みについて、口述で伝えていきたいという町民に対し、仕事でかかわる人からも町民から文化財資料にまつわる町の歴史を聞きたいという声が上がった。ほか、町の遺跡や歴史の痕跡が残る場所を回るツアーの開催、本や音楽に囲まれてゆったりと過ごせる空間、常設展示ではなく利用者のニーズに合わせて資料を活用する方法の模索、などの提案があった。

全体として資料や文書等を活用するにあたり、資料から直接というより、人を介在した学びや交流を求める声が多かった。

（詳報）

※ 網掛部分は付せんに書かれていた内容

※ 網掛がないものは付せんには書かれていないコメント

グループ①

問1

「あなたと町のかかわりは？」	「今後、どのように町にかかわりたい？」
民話を話して伝えていたりしている／	図書館 立派な建物（原発の交付金）

大熊町に関わる若者を泊めたりしている／ 大川原に家を借りている	事故にも耐えた、内部も保たれた
	図書館前の公園（自然が保たれている）
	日本初の原発事故、公文書館重要
住民参加の仕事をしていた。町のお手伝い	住民参加型→複合的な世代にこだわらずあ らゆる場、機会
	学びの場としての拠点→多目的な学び、集 い（交流）（生きる知恵を身に着ける）
仕事での関わり	もっと大熊のことを知りたい
	大熊のことをもっと様々な人に伝えたい
	大熊の人ともっと話したい
	自分の子ども、妻と大熊に遊びに来たい
	大熊の未来を考える仕事をしたい
役場職員	老後（子どもの声を聴きながら）本を読む
	社会教育を通じて大熊の人を笑顔にするよ うな公民館事業を始めたい
	社会教育を通し、子どもの声が聞こえる街 にし、誰でもあいさつできる街になるよう にしたい
震災前から図書館の専門職員として町勤務	図書館の本を使って誰でも使える駅文庫
	一人～複数の居場所、語れる場所
町の学芸員として働く	地域を知るすべを残していきたい
	町史編さんを頑張っていきたい
	もっと町の人と関わりたい

問2 「本、文化財、歴史公文書、場（公民館）をあなたならどう活用する？」

① 私は、歴史公文書を利用して、大熊町の施策の背景、秘められた思いを知ることで、大熊町の未来を考えたい。加え、それらを知人、家族に伝え、大熊町に興味を持った人を増やしたい。

—①共有後のやりとり—（以下同）

政策やその背景の思いを知ることで大熊町の未来への施策に活かす。

昔のことを知らなければ未来は考えられない。

知ることで、町を好きになる。興味を持つ。仲間になる。そのために継続が必要。

町を好きになるきっかけ。継続的にまちが自己開示する場

大野町と熊町村が合併した思いは何か知りたい

図書館の建物の形や時計台に秘められた思いは何か知りたい

原発誘致の記録の場。賛成者と反対者がいた

原発がもたらした恩恵で図書館ができた

ハコありき主義ではなく人の関与で有意義なハコを

- ② 私は、場を町の人と交流する場に使いたい。理由は文字の情報より耳から入る情報、対面の接点の方がよりよく大熊を知ることができる。

場があれば交流が生まれる。

双葉の伝承館に行ったときに熱量をもって説明してもらったのが印象深かった。

魅力づくりにはハードとソフトが必要。インキュベーション施設、ふるさと塾、未来などのサークル的な活動がある。今は課題を抽出していくことが必要。課題がソフト事業につながる。知恵のある人が町民にもいる。その人たちを巻き込む

学びの場の拠点づくり→町だけで活動せず、外部を巻き込んで！！

自分の持っている知恵、スキルの伝承⇒生涯学習⇒人づくり

町づくり＝人づくり⇒機会創出。人づくりのためには仕事や場所も必要

地域の特性を知るためには、町民が必要とすることを知る機会が必要。

本から知識を得て、文化財、歴史公文書から歴史や文化、知識を得て、公民館で人から知識を得る。

- ③ 教養、娯楽の趣味等の学べる場所

- ④ インキュベーションでいう起業家にこだわらずやりたい（学び直しなど）

- ⑤ 社会資源として、現施設の利活用

- ⑥ 世代を超えての学び直しの場合、機会（サークル講座、塾 etc）

- ⑦ 生涯学習における生きる知恵、力をつけることを目的とした学習、研鑽の場

生涯学習は生きる知恵を生むこと。地域の人たちの知恵を共有したい。

学びだけでなく遊びも必要。子どもも高齢者も女性も集まる。学び直し

- ⑧ 公文書館 原発立地の際の状況、賛成・反対 事故後の状況

公文書館を併設することで、原発をつくりにあたって多くの人が賛成したが反対した人もいたことを記録に残してほしい。反対した人が当時どういう目にあったのか。村八分になったり、のけ者にされたりした。

公文書館→人の意見や当時の人模様すらもヒアリングでメモリーする

大熊町だからこその防災や減災を学べる施設

当時の状況、この町唯一の経験を伝える

- ⑨ 歴史 知らなかったことを知る

変わっていく町で「ここが大熊」とわかるものとして図書館を残してほしい

図書館の隣接公園、歴史、あるものを残す・活かす

町民が戻って良かったと思える場づくり。これが1丁目1番地

ただ、昔からいた人だけが戻ってくるわけではない

町民あってこそその新住民

町民7：新3 のバランス。移住定住の割合のバランスはこのくらいがいい

昔の人と今の人の共生の場。風土が人を作るとはいえ、移住者が増える町で昔の復旧復興は無理だろう。だからこそ昔と今の人たちの新しい出会いが必要。外から見た人も活気づいていると思うし、元々の町民も大熊町に戻ってきてよかったと思う。人が何かを持ち寄って何かをやろうとしている町。それに火をつけるのが行政の仕事

【その他の付せん】

一人の時間を過ごせる場所として利用したい

嫌なコト、悲しいコトがあったとき、ヨリドコロとなる場として利用

行けば常に「新しい出会い」に触れられる場として活用

テレワークスペースとしても利用したい

専門家でなくても教える、学べる場

地域の記憶をつなぐために使いたい

居心地のいい居場所に使いたい

自分たちで考えてまちづくりを進めていくヒントを得るための

私は、退職したら知らない世界に出会うため、読んだことのない本をゆっくりテラスで読みたい。

私は、博物館のボランティアになって大熊の歴史を多くの人に伝える。

公民館が子どもの居場所になるような環境にする。

私なら、古文書の読み方講座で古文書が読めれば、大熊の古文書に何が書かれているか子どもに話したい。

私は、土器などを子どもたちにみせ、触れさせて、本物に触れる学びをしたい。

私は駅の電車の待ち時間を本屋ゆったりとした空間で過ごしたい

私は図書館のDVD等を使ってドライブインシアターをしたい

私は民具を使って昔の農業を体験してみたい

私は図書館の絵本や紙芝居を使って子どもたちにお話会をしたい

私は縄文土器を実際に触って模様のデコボコを体感してみたい

グループ②

問1

「あなたと町のかかわりは？」	「今後、どのように町にかかわりたい？」
仕事で町づくりに関わっている／	ビジネスユースが最もしやすい場づくり
サポートしていた子の中に大熊の子がいた	最高の学びができる場をつくりたい

	町を知れる場
	挑戦ができる場
まちづくり公社で働いている	自分たちが生きてきた証を残したい
	コメ作り
移住したばかりで関係性が薄い／ パートナーが大熊町出身	市町村の境がまだよくわかっていない。「浜通り」という視点で活動したい！
	コーヒーと読書
学芸員として働いている	楽しく仕事ができる場所としての大熊
町で働いている	住人として心地よく暮らしたい
	くつろげる場
	町に関わる人たちの話を聞いていきたい

問2 「本、文化財、歴史公文書、場（公民館）をあなたならどう活用する？」

① 移民の歴史、文化、住民の気質を伝えたい。

—①共有後のやりとり—

大熊にはいろんな人を受け入れてきた歴史がある。

第1期：江戸時代の飢饉による人口減の際の北陸からの浄土真宗信徒

第2期：福島第一原発稼働に伴う東電職員

第3期：今、東日本大震災後の移住者。

移民で町を作ってきた歴史。地域の特色の一つ。自分は第1期の子孫。今は第3期の人たちが暮らし始めている。

（誰に伝えたいのか？）大熊にこれから住んでいく人たちに伝えていく。

（どうやって？）自分たちが知っていることを語ること。

（文化財資料は伝える材料にならないか？）モノがない。自分自身、でっかい仏壇がある文化がどこから来たかとか周りの人に聞いたことで知っていった。

伝聞に間違いなどもあるかもしれないが、表には出てこない歴史もある。

自分が人から教えてもらってきた文化を伝える。

↓これを受けて…

② 文化財を見ながら町の方から町の歴史をざっと聞きたい。

（聞いてどうする？）大熊町で次に何ができるかを考える材料にしたい。

大熊町に来ただけでは、仕事に関係する要素で町を知るだけ。Dさんが話したようなことはわからない。

これまでの概観、基盤となる文化、歴史を知ることによって発想に広がりがある。商品をつくるにも町の強みを知った上で企画するかどうかで違いが出る。商品で物語を伝える。歴史を学ぶことでこの町をとらえる視点と発想に広がりがある。

町を深掘したい。学ぶ場に。

(資料展示ではダメ?) モノを見てもストーリーが分からない。直接聞きたい。

(パネルがあってもいい?) 概要を知るには有効

↓

③ 町の上空写真、観光情報

先に町のことを知りすぎたくない。

新しい町ではまず上空写真くらいの情報で町の大枠をつかんで、こういう町かなと探りながら町を歩きたい。町を自分の目で見た上で生まれた疑問を町の人などに聞きたい。

上空写真や観光情報的なものを見て、外に出て、深堀しに帰ってくるような2段構えの情報の提示だといいかも。

展示で得る情報はどうしても一般化されたもの。

まずは自分がこの町で何を感じるか、自分の感覚を大事にしたい。

最初に教えすぎないでほしい。

↓

④ 町の地図や模型を使って友人に町のことを説明したい

上空写真でもいいし、模型もいいのでは?

町外から友人や親が来たときに、町を案内しても区域の違いや、今この地域がどういう状況なのか、目の前の景色だけでは概要が分かってもらいづらい。

町の多目的ホールにあるような模型がだれでもいつでも見られるようなところに置いてあれば、こういう区域分けがされているとか、中間貯蔵施設の大きさなどが説明しやすい。上空写真、地図などでもいい。全体を把握して、町を案内したい。

行政区も示した地図もいい。

↓

⑤ ツアーに参加したい。

先日、町内の山の中を町民の詳しい方に案内してもらって歩いてきたが、非常に面白かった。話を聞いているだけではわからない。

町の成り立ちや歴史などを教えてもらいながら実際に町を回れるツアーがあるといい。仕事の際にも、町を車で走りながら、いろんなことを先輩学芸員に教えてもらっている。とてもためになるし、おもしろい。

中間貯蔵施設内なども環境省ではなく町で案内できるといいと思う。

↓

⑥ トロッコ道、塩の道 歴史を伝えたい

町にはかつて木材を運んだトロッコ道、ひいては郡山、会津までいったのかと思うが塩を運んだ道が残っている。そういう所を歩いても面白い。

先日歩いた山の道がそういう場所だった。

木材もそうだし、炭焼きは日本で唯一の研究所が設置されていた。エネルギーの供給という意味では大熊町は原発だけではない。

産業遺産にあたるのかもしれないが、そのような現場もツアーのようにできるのでは。さかのぼれば製鉄もやっていた。

施設内ではなく、施設の外にある現場、遺跡等も資料としてとらえられるといいかも。

↓

⑦ 特産品の由来やそうなった経緯について知りたい

例えば梨の種類や育て方などは本などでわかるが、なぜ大熊町で梨が特産品になったのか。その背景は一般書を読んでもわからない。

本ではわからないことを展示で知りたい。一般的な事実ではなく、町との関係性を深掘りできるような施設。詳しい人に話を聞ける場所。

パネル展示や資料展示はどうしても標準的な説明を受けているような印象になる。興味のあることの表面をなぞるような印象で、深掘りに向かない。

興味関心の対象は千差万別。すべてに応えるような展示は難しいのでは。

埋蔵文化財の発掘調査などをやって報告書をつくるのが仕事だが、報告書は一般の人向けではない。

展示はつくった後の改変は難しい。現状で常設展示を作ってしまうより、企画展示で対応するのもいいのかもしれない。

今回の手ぬぐい展示のように。

↓

⑧ 面白いものを集めて貯めておきたい

収蔵できるスペースは大事。分からないことを調べたり、興味に対応する展示を可能にするためにも資料があることは大事。保存を軽視したくない。

資料を貯めておいて、出番を待つ。

↓

⑨ 話を聞く際の導入にむかしの写真や資料（生活道具）を持っていきたい

貯めておく資料を展示で使うだけでなく、もっと気軽に使えればと思う。

町の人たちに話を聞いたりするとき、文化財資料は記憶や言葉呼び起こす触媒になると思う。

どの資料でも、とはいかないと思うが、必要に応じて持って行ったり、気軽に使えたりするといい。

↓

⑩ その時面白そうなものを利用できる場

その時々で出てきたニーズに対応した資料活用。

リピートできる博物館。地元の方は博物館に2度3度と行かない。町民がリピートする博物館ができればおもしろい。

⑪ 休日ふらっと立ち寄って飲み物片手に1日読書していきたい。

⑫ 海外？日本？写真集を見ながら次の旅先を決めたい

自分は図書館に本を読みに行くわけではない。特に目的もなくゆったり過ごす場所。リラックスする場。勉強。

世界中を旅していたが、すべての国に図書館はあって無料。どの国でも図書館について地域の情報を得ていた。

↓

⑬ 情報の海でサーフィン！

本、情報に囲まれる楽しさ。今回の図書館開放と本の譲渡がまさにその体験。ここにどんな本、情報があるか分からない中をさまよう。

ネットで自分好みに選ばれた情報ではない、余計な情報がほしい、手に取りたい。

↓

⑭ 本とコーヒーもしくはワイン

気持ちよく休日を過ごしたい。今の大熊にはその選択肢がない。

大熊だけでなく双葉郡全体で少ない。

図書館ってシーンとしている印象があるが、BGMがある図書館、博物館もいい。南相馬市の図書館のテラスは気持ちがいい。

図書館に行く目的が、調べもの、読書から雰囲気を楽しむことに変わってきているのでは。

↓

⑮ 文化センターのスタンウェイを聞きたい

すごく高いピアノが文化センターにある。

音楽の練習とか楽器ができる場所があればいい。

ストリートピアノならだれでも気軽に使える

(リンクルに音楽スタジオあるが?) 少し小さい。本の隣でそういうことができればいい。

複合施設の公民館的などところでピアノを弾いている人がいて、その音が図書館にも漏れ聞こえてくるような距離感。

図書館でコーヒーが飲めるような落ち着ける場所が欲しい。

⑯ 仕事に関する本を読みたい

仕事の内容は変わっていくし、そのたびに新しく関心のある本を買っていくのも大変。ほしい本が周辺の本屋にないことも多く、いわき市や南相馬市の図書館にはあるが私は住人でも勤務者でもないので借りられない。

仕事の内容は多岐にわたる。図書館がカバーするのは難しいのでは。

本屋でよく見る本より専門書が充実しているといい。

図書館だと相互貸借があるので、大熊町図書館を通じて南相馬やいわき市の図書館の本を借りられるのはいいと思う。

↓

⑰ 放射線にまつわる論文を比べながら少しずつ読みたい

⑱ 大熊町が関わっている研究を一覧で見たい

町に関する論文とか書籍は数多くある。一冊一冊は町でなくても手に入るものだが、大熊に関するものがそろっていると、比較もできるし、ここに来なければ得られない情報として大熊に来る価値が生まれる。

↓

⑲ 原発誘致に係る実情を公文書で知りたい

⑳ 古民家での暮らしを体験したい

民俗伝承館の常設展示室の古民家を初めて見た。立派な民家なので、展示だけでなくせっかくなら暮らしを体験するような活用ができればいい。